

報道発表資料

相談解決のためのテストから No. 97

平成 28 年 3 月 17 日  
独立行政法人国民生活センター

消費生活センター等の依頼に基づいて実施した商品テスト結果をご紹介します。

## 突然動き出した電気掃除機

### 1. 依頼内容

「電気掃除機の電源プラグをコンセントに挿したままにしていたところ、スイッチを切っていたにもかかわらず掃除機が突然動き出した。原因を調べて欲しい。」という依頼を受けました。

### 2. 調査

当該品は消費電力が 1000W のサイクロン式の掃除機で、持ち手のハンドル部分にあるスイッチ（以下、「操作スイッチ」という。）を操作して、吸引力の調整と運転のオン・オフができるものでした（写真 1）。

写真 1. 当該品の操作スイッチ



当該品の外観には破損や変形した部位などは見られませんでした。操作スイッチには通常の使用によると考えられる傷や埃<sup>ほこり</sup>の付着が見られました。

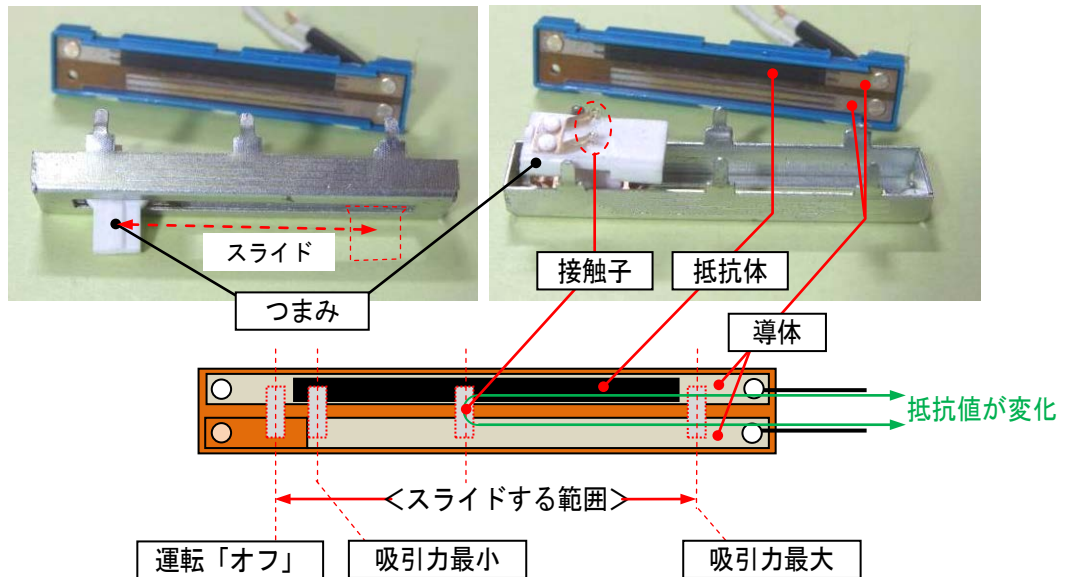
また、当該品の電源プラグをコンセントに挿して通電調査したところ、操作スイッチが運転「オフ」の位置にもかかわらず動き出し、操作スイッチでは運転を止めることができませんでした。このことは、突然動き出したという申し出の内容とは異なる現象でしたが、操作スイッチに何らかの異常があるものと考えられました。

そこで、操作スイッチの調査を行いました。操作スイッチには電源のオン・オフ及び吸引パワーの調整をするときに動かす（スライドさせる）つまみに連動して抵抗値が変化するスライドボリュームという部品が使われていました（図）。

操作スイッチをスライドさせた際の抵抗値を測定したところ、当該品は同型品と比べて低い

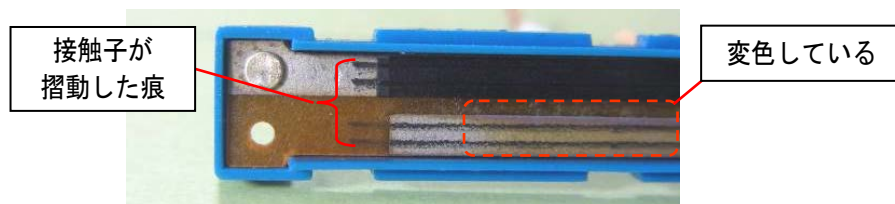
抵抗値を示し、運転「オフ」の位置では、同型品が 100MΩ 以上であったのに対して、当該品の場合には数百 kΩ～数 MΩ の範囲で変化し、オン・オフを繰り返す度に異なった値となり不安定な値でした。

図. 操作スイッチ (スライドボリューム)



さらに、当該品のスライドボリュームの摺動面<sup>しゅうどうめん</sup>は、薄茶色に変色している部位が見られ、全体的に薄黒く汚れており、接触子が摺動した痕が黒く線状に付着していました (写真 2)。摺動面を白い布で軽く拭いたところ、布には黒色の汚れが付着しましたが、黒色の汚れは、抵抗体と導体の上を接触子がスライドすることで生じた摩耗粉が含まれている可能性が考えられました。

写真 2. スライドボリュームの摺動面



以上のことから、当該品が突然動き出した原因として、スライドボリュームの抵抗値が内部に付着した汚れなどにより不安定となり、運転条件を満たす抵抗値になったことに加えて、電源プラグがコンセントに挿したままであったことが考えられました。

### 3. 解決内容等

依頼センターが今回のテスト結果を製造事業者に説明し、相談者へ購入代金が返金されました。同型品は生産を終了しているとのことでした。

本件問い合わせ先

商品テスト部 : 042-758-3165